



述孔小補抄
全

伊地知文庫
文庫20
246





伊地知氏書冊

菘花波山一葉ありてと分初く
 彼面斗面乃道の枝折ぬる人石
 けりいた志の口いしをあはれ志人
 やなは飯田花山を志あしりし
 乃ふ心涼くく初よやりたるち
 祿のりえ志こころい乃とゆめ
 よくさうてい安阿のりよは行く
 田川のなるまはは年法まむか

理の無常なるを以て一候非命を其終に
神乃靈を以て其終に以て其終に
冥より其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に

上より其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に
其終に以て其終に以て其終に以て其終に

中ふらぬ法ははらふと一法一法ははらふ
魚一付の法上ももこれ法ははらふ
即ちあつた人乃所と母あつた子と
も好むと好むまじく又此魚ははらふ
此ははらふまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と

中ふらぬ法ははらふと一法一法ははらふ
魚一付の法上ももこれ法ははらふ
即ちあつた人乃所と母あつた子と
も好むと好むまじく又此魚ははらふ
此ははらふまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と
あつたまじくはらふ人の子と

美奈よ子えんぬうくおほえきつりて
多りよき歌せんちくえん大むのかくあぢ
色きやね中顔る顔るかくみしや
ハ歌乃き歌りなきうくおほやうは
けひの解りなきやうけいも撰集
外しよきもあまなるさあまそこ下は
うけよりのたふさぬくしりきし
丸情一よきはる顔る中顔る巻白

うきもあぢとあそび日くあぢもきり
しひあぢもあぢとあぢりあぢり
ゆんあぢくあぢりあぢりあぢり
あぢもあぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢり

神ひ人乃ら... 人にも... 専ら... 此... 英... 七... 八

... 一... 多... 此... 此丸... 乃人...

何處高きや 泥跡もさかへし 尾も
又、まをさし 出まひりし ぬき ぬき ぬき
さき 深き ぬき 入底下 ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
廿日 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
て 血 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

あゝ ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
廿日 廿日 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき
ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

あはれでもはるあはれ金一とてうへへは
世の人うへへとてかへりかへり古人の
証書一紙乃ちあはれ金一とてうへへ
あはれ、古詩の文字、熟字、まじりは
ら一き、はるあはれ金一とてうへへ
まじり、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ

あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ
あはれ、あはれ金一とてうへへ

母して玉子もすしりて玉子もすし
と魚の旨い風情をあらわし作り金時
大の旨いすしをいへる上り玉子もすし
うまうまあんしりしりしりしりしり
ハ次玉子もすしをいへるもすし
も金時あんをいへるもすし
祇玉子ある人すしをいへるもすし
二玉子もすしをいへるもすし
布巾の旨いすしをいへるもすし
勺すしをいへるもすし
すしをいへるもすし
見玉子もすしをいへるもすし
すしをいへるもすし
魚味熱すしをいへるもすし
すしをいへるもすし
佛法すしをいへるもすし

其後之世なり近代一字も其に
付合ふ事ありし成中より計るる事あり
し之の如く其の如くあり久し
法一之にありし事あり其の如く
が一之にありし事あり其の如く
う如く彼未だ此中より其の如く
申入る事ありし日御之ありし乃
上より其の如くありし事あり其の如く

秀の如くありし事あり其の如く
其の如くありし事あり其の如く
まの如くありし事あり其の如く
かありし事あり其の如くありし
法一之にありし事あり其の如く
次より其の如くありし事あり其の如く
物法一之にありし事あり其の如く
を其の如くありし事あり其の如く



此書也飯田範正之所著也於筑波之道亦無小補今

得見此以贅一言云

安永庚子夷則

阪昌周



あめんがむのうきさるり何れか
のふくろきほしきもあもね
るあつちのうきさるり何れか
あー安永のうきさるり何れか
たなりのうきさるり何れか
あつちのうきさるり何れか
あつちのうきさるり何れか
あつちのうきさるり何れか
あつちのうきさるり何れか
あつちのうきさるり何れか

ふく乃ぬ安のちしよんこくわん
あまはのふしききくはくは
なむの補抄をきくはくは
しはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは

かーくありてあたり棒子あり
をえんてんかひ人りあはくは
くはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくは

寛政己未秋 廿五日 岡田人



享和元酉歲子孟春

室町通松原下几町

京都書肆

菊屋甚兵衛梓

